

「平成27年度(2015年度)いぶき福祉社会事業計画」

1、はじめに

本法人は平成6年6月に法人認可を受けて以来、一貫して「どんな重い障害のある人でも、障害を科学的に分析し、その発達段階に応じた適切な援助を行うことによって限りなく発達し、様々な社会サービスを受けつつ、地域で自立した暮らしを送ることができる」を理念に掲げ運営を続けてきた。

2、法人本部体制

事業規模の拡大、多様化を受け、組織の改編を行う。新たに法人本部組織を立ち上げ、法人全体の事業及び外部団体との渉外を一元化し統括する。

3、職員労務管理体制

多様な事業・勤務形態に対応した職階のあり方を含め、適材適所の人事体制を築く。事業の拡大に伴う管理体制の在り方を検討し、責任の所在を明確化した管理機構を構築する。北・西・駅前 の 3 事業部に事業部長を置き、職階のフラット化を図る。

4、新規事業計画

JR岐阜駅隣接の「シティタワー43」に、かりんとうのオープンファクトリーを新設し、アクティブGのアンテナショップ「ねこの約束」と一体化した事業を行う。この事業は今年度より事業形態を変更する「いぶきゆめひろ共同作業所」と一体化して「就労継続事業A型」とし、軽度障害者の高賃金を得られる雇用の場として事業展開する。

5、事業の概要及び計画

① 「いぶき」

岐阜市初の民間法人による通所授産施設(定員30名)として、平成7年4月1日岐阜市島新町に開所、平成15年4月1日より定員35名に増員した。障害者自立支援法の施行に伴い、利用契約者を39人とした。昨年度「きざはし」の事業開始により生活介護事業20名の事業とした。

②「第二いぶき」

2箇所目の通所授産施設(定員30名)として平成11年4月1日岐阜市出屋敷に開所。岐阜市の委託事業として平成12年10月1日より「重症心身障害児(者)通園事業B型(定員5名)」を併設した。更なる利用希望者の受け入れのため、平成17年4月1日より通所授産施設の利用定員を35名に増員した。平成23年にコラボいぶきと統合し、定員40人の生活介護事業に移行した。本年度は「第二いぶき(生活介護事業20名×2=40名)」「第二いぶきB(生活介護事業18名)」に再編・増員する。

③「いぶきゆめひろ共同作業所」

岐阜市の委託を受け、平成9年4月1日定員12名で「うずら共同作業所」を開所。一般就労に向けた取り組みを重視した施設として、現在まで2名の一般就労実績がある。障害者自立支援法の施行に伴い、運営の効率化のため2008年4月1日より、法人本部の「いぶき」近隣に移転し、「いぶきゆめひろ共同作業所(就労継続支援事業B型)」と名称を変更、就労支援のため食品製造販売事業を柱に高賃金追及の取り組みを進めてきた。3年前より就労移行支援事業(定員20名)に移行したが、就労実績を上げるのが困難な状況となったため、駅前事業部を併設し「就労継続支援事業A型(雇用型)20名」とする。

④「サテライトいぶき」

いぶきの利用者が40名を超過し、さらに入所希望者が増えている事態を鑑み2013年度より「いぶき」より約150メートル西に位置する「洋伸ビル2・3F」を借用し「サテライトいぶき(生活介護事業20名)」を新設した。従来の下請け作業に加え、野菜・果物等の乾燥プラントを配備し新たな事業展開を行う

⑤「きざはし」

慢性的ないぶきの定員超過を解消すべく「いぶき」西50mに位置する物件で平成26年4月に「きざはし(生活介護事業20名)」として事業を開始した。今後はお茶・ブルーベリー・野菜等の農業分野の取り組みを進めていく。

⑥「グループホーム(共同援助事業)」

障害者の自立した地域生活に向けた有効な社会資源であるとの認識から、平成12年4月1日「しまホーム(定員4名)」を、平成14年4月1日「さぎやまホーム(定員4名)」を開設した。さらに重度重複利用者のニーズに対応すべく平成16年11月に「第二さぎやまホーム(定員4名)」平成23年4月1日に「パストラルいぶき(定員18名)」を開設した。さらに平成24年4月に「第二しまホーム(定員2

名)」を開設した。2013年度は「さぎやま・さぎやま第二ホーム」の一部を島地区に統合移転し「新ホーム(定員 6 名)」を開設した。さらに老朽した「しまホーム」をいぶき近隣の物件を購入し移転した。これによりいぶき福社会の運営するグループホームの総定員は 34名となる。さらに希望者受け入れのため「パストラルいぶき第 2 期事業」の議論を推し進めていく。

⑦「たーぶる(放課後等児童デイサービス事業)」

昨年度開設した「たーぶる(定員 10 名)」は昨年実績で 6 名~7 名の利用であったが、利用希望の増加により昨年度は平均 10 名の利用があった。いぶき 2 階の全フロアーを利用し展開していく。

⑧相談支援事業

事業利用者の制度利用に際しアセスメント・計画立案・モニタリングを一貫して行う事業で、いぶき福社会の新規利用者・既利用者に対し、専従職員を配置して行ってきたが、今後は地域で暮らす障害児(者)の相談ニーズが高まってきたため、新設の地域支援事業部に複数名の相談支援専門員を配置する。

6、法人設立 20 周年記念事業

昨年度法人の設立 20 年のプレ企画として「いぶきの実践」に関するオープンセミナーを開催した。本年度は法人 20 周年を祝いその歩みを確認しあうため 2 つの事業を行う。

①20 周年記念誌の発行(仮称)

②20 周年ともに祝う会(仮称)